

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Does biopsy type influence survival in clinical stage I cutaneous melanoma?	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ7-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	4078105	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	13	
	号	6	
	ページ	983-7	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1985 Dec	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lederman JS	ハーバード MGH 皮膚科
	その他著者 1	Sober AJ	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
	その他著者 10		

一次研究の 8 項目	目的	生検手技の違いが予後に影響するか検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	ハーバード MGH 皮膚科	
	対象者	1972 年 9 月から 1977 年 5 月までにハーバード MGH 皮膚科で診察をした、転移の無い黒色腫患者 472 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	Incisional biopsy、excisional biopsy	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	5 年生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	472 例中 119 例は incisional, 353 例では excisional biopsy であった。Tumor thickness 1.7mm 未満では incisional biopsy と excisional biopsy の間に 5 年生存率の差はない。1.7mm 以上では incisional biopsy のほうが予後が悪くなるという結果が出たが、多変量解析を行うと有意差は見出されなかった。		
結論	初回の生検では incisional biopsy、excisional biopsy のどちらを行ってもよい。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志	

	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ） 有意差はないものの、生存曲線は交差せず incisional biopsy が下に位置している。「有意差なし」という結果は「同じである」ことを証明していない。
--	------------	---